

「征地球論」

(藤子・F・不二雄 SF 短篇集④ ぼくは神様 など)

経済学部 3 回生 山本翼

征地球論。タイトルだけ見ても、『気楽に殺ろうよ』などのような風変わりな作品という雰囲気はあまり感じられません。簡単なあらすじとしては、地球を攻めるべきか考えている宇宙人たちが地球人の生態を観察する、というものです。そのまんまですね(笑) それならそのあらすじからは推し量ることのできないところにこのお話の魅力が隠されているのかということとそうでもなく、“藤子・F・不二雄という漫画家の描く宇宙人たちが地球人の生態を観察する”、このお話の魅力はそこに収斂されるんじゃないかと思っています。

なんだかよくわからない説明になってしまったので、もう少し詳しく説明しますね。

まず、地球を征服すべきか否かの結論を出すために「極東とよばれる地域のある島国の住人」の生態を観察する宇宙人たちですが、その観察は“宇宙人が観察する”視点であるがゆえに、私たちが普段前提としている常識や、いわゆるパラダイムといったものを前提としていません。悪く言えば非人間的とも言えますが、そのおかげで私たちの抱えている矛盾を鋭く突く発言が多く、痛快だったり、耳が痛かったり、考えさせられたりして非常に面白いです。これがこのお話の醍醐味だとも思います。あくまでも藤子・F・不二雄先生が考えていたことなのだから一人の漫画家の思考の域は出ないはずですが、小学生の私に読ませて絶対理解できなかったと思うし、大学生の今も、さらにはこの先にもそのすべては理解できない気がします。

それから、このお話は言ってみれば地球人の生態を観察するだけなのですが、そこはやはり藤子・F・不二雄先生、起承転結がしっかりあります。一人の少年の何気ない日常を追ってはいるんですが、その中での出来事が私たちの生活の様々な場面と繋がり、かつ宇宙人たちが結論を下すまでの経緯として成り立っています。“地球人の生態”が私たちの日常と地続きでありながら物語を構成しているのもこのお話の魅力の一つだと言えるでしょう。

そして最後にもう一つ、宇宙人が可愛い！ 子供向けの漫画かといえばそうでもな

いとは思いますが、宇宙人たちがいかにも“藤子・F・不二雄先生の漫画”らしい
というか、まさにコミカルな雰囲気描かれているんです。内容にはある種SF短編
的な面白さがあるんですが、絵柄はやっぱり藤子・F・不二雄先生というのも、この
お話の大きな魅力ですね。

以上がこのお話に感じた主な魅力です。さらに漫画の中からセリフを抜粋して紹
介しようかとも思ったんですが、抜粋したいセリフが多すぎて選べないのでやめて
おきます(笑) 興味を持っていただけたら是非、コミカルな宇宙人たちの視点やそこ
から見る私たちの生活、そして宇宙人たちの下す結論(ネタバレにならないように詳
しくは書きませんが個人的にはこの結論もすごく好きです)にも注目して読んでみて
ください。

長文・乱文失礼しました、この文章を読んで「征地球論」を読みたいと思っても
らえれば嬉しい限りです。

